

## ～ はじめに ～

宮崎みどり製薬株式会社は、昭和33年3月創業の九州産業株式会社内に広葉樹チップの生産過程で副産物として産生される広葉樹皮の処理を目的として熱化学部を創設し、それを起点に昭和45年、廣崎総業有限会社を設立し、進化・発展してきました。昭和48年11月27日、廣崎総業有限会社主催の「第一回全国ネッカリッチ大会学術講演会」を宮崎市で開催し、初めて牛・豚・鶏等へのネッカリッチの効果等が報告されました。当時、土壌改良材として使用された木酢液は杉乾溜液でありました。当初「杉」を用いる事が起点になっていた事に不思議な思いがします。また、今回の全国ネッカリッチ研修会は第41回ですが、廣崎総業有限会社から通算すると46回目となり、あと4年で半世紀50年となります。今回の研修会の内容は、宮崎みどり製薬株式会社が約45年かけて導き出した木材成分を高度に活用し、循環型農業の本質と、その実証方法を確立した「循環型農業教書」の報告であります。

循環型農業における健全なる土壌条件は、土壌呼吸の促進と水分の保水・排水を保持し、土壌微生物が常時生存可能な環境である事です。「循環型農業を阻害する内外の要因」は、硝酸態窒素・C/N比・リグニン・土壌コロイドです。これら4つの要因を改善する原料は日本国内で生産される木材及び木材成分です。

今後、日本の一次産業は関税ゼロの自由化でグローバル(欧州)基準への対応が求められます。一次産業は、グローバル基準での品質と機能性を凌駕するイノベーション(技術革新)が不可欠です。宮崎みどり製薬株式会社は、木材及び木材成分を高度に活用した研究開発型事業体です。宮崎みどり製薬株式会社は、国土保全、海外との競合に打ち勝つ手段としての循環型農業を一層進化させ、消費者に機能性食材を提供できる一次産業の確立にまい進していきます。